

氏名	田 中 出		
学位(専攻分野)	博 士(医 学)		
学位授与番号	博 乙 第 2487 号		
学位授与の日付	平成 4 年 9 月 30 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)		
学位論文題目	Biotin標識Probeを用いたhisto in situ hybridization法による胃癌組織における癌遺伝子mRNAの検討		
論文審査委員	教授 寺本 滋	教授 赤木 忠厚	教授 関 周司

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

ここ数年、特異的塩基配列をもった核酸の分布を組織及び細胞内で同定することにより特定の遺伝子と遺伝子産物の局在を証明する新しい組織化学的方法 (in situ hybridization法)の技術が開発され、検討されつつある。この方法を用いて胃癌組織内の癌遺伝子の発現をmRNAレベルで検出し、局在、深達度、リンパ節転移の程度及び組織型を比較検討した。

癌組織は、ホルマリンで固定し、パラフィン包埋し、2種類のビオチン標識プローブ (c-myc c-Ha ras) を用いてDNA-mRNA hybridizationを行った。

癌遺伝子mRNAは、細胞内では主に細胞室に局在し、一部の細胞では核内にも認められた。進行癌においては早期癌よりも強い発現を示す症例が多く、また、n₂以上のリンパ節転移陽性例では、n₀, n₁症例よりも強い発現を示したが、組織型とは相関関係は認められなかった。

これらの結果は、癌遺伝子mRNAの発現、癌のmalignant potencyと強い相関があるものと推測され、予後との関連、さらに治療の選択や制癌剤の作用効果の判定等、分子病理学として臨床的に有用である可能性があると考えられる。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は胃癌組織における癌遺伝子について検討したものであるが、Biotin標識probeを用いたhisto in situ hybridization法により癌の遺伝子発現をmRNAレベルで検出し、局在、深達度、リンパ節転移の程度及び組織型について比較、検索した結果、重要な知見

を得たものであって価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。